

羅針盤

令和2年度 第3号 (通算 317号)
令和2年5月18日(月) 発行
岡山県総合教育センター 企画部
Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

人間としての在り方・生き方を考える教育を進めよう

～論語学習について～

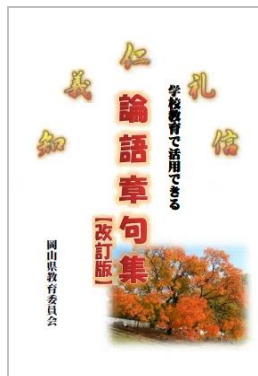
岡山県には特別史跡旧閑谷学校があります。旧閑谷学校は、「近世日本の教育遺産群～学ぶ心・礼節の本源～」として平成27年、日本遺産に認定されました。

旧閑谷学校は、江戸時代に建てられた、庶民を中心とした学問所で、そこでの教育の中心に置かれたのが論語でした。開校以来、講堂の床に正座して論語を学ぶ姿は、旧閑谷学校の伝統となっています。

さて、学校教育においては、子供たちが、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り拓く力を身に付けることが求められますが、子供たち自身がそうした力を身に付けるときの知恵やヒントが論語には簡潔に集約されており、それが論語の魅力の一つと言えます。「自分がよければそれでよいというのではなく、社会全体がよくあることが望ましい」など、普遍的なことが書かれています。

岡山県教育委員会では、心の教育や生き方教育の充実を図るため、平成27年に「学校教育で活用できる論語章句集」を、平成28年に「『学校教育で活用できる論語章句集』を活用した論語学習実践事例集」を作成しました。

論語学習とは、教師が子供たちに徳目を一方的に押しつけるのではなく、章句の朗読や章句の意味を考えることで、よりよく生きるための知恵やヒントを学び、子供たちがお互いを感じたことを交流し合い、自らの生き方を振り返る機会とする学習です。



「学校教育で活用できる論語章句集(改訂版)」
「『学校教育で活用できる論語章句集』を活用した論語学習実践事例集」

<https://www.pref.okayama.jp/page/380794.html>

県内のある小学校では、児童用玄関の壁面に、児童が毛筆で書いた論語の章句が掲示されていました。校長先生からは、「毎月、代表児童が自分の好きな章句を選び、それを毛筆で書き、全校朝礼の際、章句の意味や好きな理由などを発表し、その後、一か月間掲示している。」というお話を伺いました。自分の座右の銘を心を込めて書き記し、大切にしながら日々生活する子供の姿に感銘を受けました。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国的に、医療従事者やその家族が中傷や差別を受ける事案が大きな問題となっています。医療・福祉だけでなく、運送業など社会生活維持にかかわる人々の子供が登校自粛要請や登園拒否をされ、いじめを受けるなどの問題も明らかになっています。

論語には「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。」という章句もあります。学校教育に論語を取り入れ、人間としての在り方・生き方を考える教育を進めていくことを期待しています。